

アメリカ共産党の 声明を評す

1963.3.8

外文出版社
北京

アメリカ共産党の声明を評す

外文出版社
北京

アメリカ共産党の声明を評す

(一九六三年三月八日付「人民日報」社説)

ことしの一月九日、アメリカ共産党は中国共産党を公然と攻撃する声明を発表した。このほかにも、アメリカ共産党の一部の同志は、ここ数ヶ月らい、中国共産党を攻撃する言論を少なからず発表している。

アメリカ共産党の声明はとりわけ、中国共産党がカリブ海の危機に際してとった立場に悪らつな中傷と誹謗をくわえた。声明は、中国共産党の政策は「熱核戦争に導く政策」である、「われわれの中国の同志のこうしたエセ左派の教条主義的、セクト主義的路線は、もつとも冒険性にとむアメリカ帝国主義者の路線と一致しており、後者をはげますものである」とのべている。

これはまったく言語道断だ！　このような恥知らずな誹謗がアメリカ共産主義者の口から出たという事は、まったく驚かざるを得ない。

中国共産党と中国人民がカリブ海の危機に際してとった立場はひじょうにはつきりしている。われわれは、キューバ革命政府が提出した五項目の正義の要求を支持し、ケネディのニセの「保

4
証」をかるがるしく信じることに反対し、「国際査察」をキューバにおしつけることに反対した。われわれは終始一貫、鬭争のほこ先を、キューバを侵略するアメリカ帝国主義にむけている。

われわれは、キューバへのミサイル兵器もちこみを主張しなかつたし、また、いわゆる攻撃的兵器のキューバからの撤去も妨げなかつた。われわれは冒険主義に反対するとともに降伏主義にも反対する。たずねるが、われわれのこうした正しい立場が、どこに非難される点があるだろうか。どうして「熱核戦争に導く政策」といえるだろうか。どういう点でアメリカ帝国主義の路線と「一致」しているのか、と。

人びとは、アメリカ帝国主義の路線と一致する路線がたしかにあるのを見てとっているはずである。アメリカ共産党の一部の指導者は、カリブ海の危機に際して鬭争のほこ先をキューバ侵略の張本人であるアメリカ帝国主義にむけるのではなく、だんことしてキューバを支持している中国共産党にむけたのである。これは、もつとも冒険性にとむアメリカ帝国主義者と同じ穴のむじなというものではなからうか。

諸君は、だんことしてアメリカ帝国主義に反対している中国の同志を「エセ左派」だとよんでいる。それではたずねるが、諸君の考えておられる真の左派とはどういうものだろうか。他国の

主権をひきあいアメリカ帝国主義と政治的な取り引きをするのが真の左派だろうか。もしもほんとうにそうだとすれば、それこそ真正正銘のエセ左派であり、真の右派である。

アメリカ共産党の一部の指導者がカリブ海の危機の問題で中国共産党を攻撃したことは何も偶然のことではない。彼らがこのような行動に出たことは、アメリカ帝国主義に対する彼らの認識と立場がまったく間違つたものであることを示すものである。

相当長い期間にわたつて、アメリカ共産党の一部の指導者は彼らの報告や言論の中で、極力アメリカ帝国主義をかざりたて、極力アメリカ帝国主義の親玉ケネディをかざりたて、アメリカの支配階級への自分たちの忠誠を懸命になつて表明している。

彼らは、ケネディが提出した、アメリカの勢力範囲を世界の六大洲にまで拡大するという、いわゆる「ニューフロンティア」精神を賞賛して、「ケネディのようにニューフロンティアにふれたことは結構なことだ」(一九六一年二月の『ポリーチカル・アフエアズ』に掲載されたアメリカ共産党中央委員会総会でのホルルの報告より)といっている。

彼らは、アメリカ人民に犠牲を払つてアメリカ帝国主義の事業をおしすすめよと呼びかけたケネディの就任演説をたたえて、これは「平和の道へのスタートになるだろう」(一九六一年一月二十九日付『ワーカー』より)といっている。

彼らは、ケネディが一九六一年に「片手に矢、片手にオリブ」という反革命的な二つの口をふきまくった一般教書をほめたたえて、この教書は「アメリカの圧倒的多数の人民から歓迎されている」(一九六一年二月五日付『ワーカー』より)と語っている。

彼らは、「ケネディ政府を支持している主な大衆は」、「労働者階級、黒人、平和勢力」であり、みなが喜んで希望を、ケネディ政府が「和平と民主主義の方向にむかつて政策を変更する」(一九六一年七月十六日付『ワーカー』に掲載されたホルルの政策についての声明より) ことによせている、と考えている。

彼らは、軍備をはやめてアメリカによる世界制覇の実現を目標とするケネディの一九六二年度の一般教書の中から、ケネディ政府は「人民の圧力を受けいれざるを得なくなる」(一九六二年二月の『ポリーチカル・アフエアズ』より) という結論をひき出してはいる。

彼らは、一九六二年の鋼鉄値上がり事件の中で、ケネディがロックフェラー財団を支持してモルガン財団に打撃をあたえたやり方を、「アメリカ人民の独占資本に反対する伝統をよびおこした」ものであり、「偉大な貢献をした」(一九六二年四月二十二日付『ワーカー』より) といっている。

彼らは、核恐喝によってアメリカの指導する「法的世界」をうち立てるといってケネディの一九

六三年度の一般教書を評して、ケネディのいうアメリカの「もとめているものは一國の全世界における勝利でもなければ、一つの制度の全世界における勝利でもなく、人類の全世界における勝利である」ということをさかんに宣伝している。彼らは、このようなウソつばちを、ケネディの「世界の現実に即した認識」であり、「大多数のものはこれを聞いて喜んでゐる」、そして、「希望をもえあがらせてゐる」(一九六三年一月二十日付『ワーカー』より) などといっている。

彼らは、自分たちは暴力をもってアメリカ政府をうちたおすようなことは主張しないと「いつでも、毎日でも」誓いをたてることができる、といっている。「もし、ソ連がアメリカに攻めてきたらばあ、あなたはどちらを支持するか」とたずねられたとき、彼らは、「もしもわたしが、わたしの国が攻撃されたと認めた場合、わたしはわたしの国を守るだろう」(一九六三年二月二十四日付『ワーカー』より) と答えている。

アメリカ帝国主義を美化し、それに対して忠誠を誓うアメリカ共産党の一部の指導者のこうした言論は、モスクワ宣言、モスクワ声明がアメリカ帝国主義について下したマルクス・レーニン主義的結論と、何らの共通点もないのである。

モスクワ宣言とモスクワ声明はアメリカ帝国主義について科学的な分析をおこない、アメリカ

8
帝國主義は最大の國際的搾取者であり、全世界の反動勢力の中心であり、現代植民地主義の主要なとりでであり、國際的憲兵であり、侵略と戦争の主要な勢力であり、全世界人民の敵であると明確に指摘している。

「アメリカ帝國主義は「平和」と「軍縮」の看板にかくれて、軍備拡張と戦争準備に拍車をかけている。アメリカ帝國主義は、あらゆる種類の戦争の準備をととのえており、全面的な核戦争、局地戦争を準備するだけでなく、げんに「特殊戦争」をやっている。アメリカ帝國主義は武力とドルとを交互につから反革命的な二つの手口を弄するとともに、ユーゴスラビアの修正主義一味をその別動隊に仕立てあげ、全世界で、とりわけアジア、アフリカ、ラテン・アメリカのいたるところで民族民主革命運動を弾圧し破壊し、新植民地主義をおしすすめている。アメリカ帝國主義は世界各国の富を略奪することにかけてはもつとも貪欲であり、たとえそれが自分の同盟国であつても見のがすようなことはしない。第二次世界大戦がおわつてのち、アメリカ帝國主義はさつそくドイツ、日本、イタリアのファシストの地位にとつてかわり、全世界のもつとも反動的な、もつとも腐敗した勢力をすべて自己の周囲に結集している。アメリカ帝國主義は現代のもつとも寄生的な、腐りはてた、反動的な資本主義であり、現代の侵略と戦争の主要な根源である。

全世界のますます多くの人びとは、アメリカ帝國主義の反動的な本性とその侵略政策、戦争政策の中から、世界の現実の中から、アメリカ帝國主義がすべての被抑圧人民と被抑圧民族のもつとも凶悪な敵であり、全世界人民の共同の敵であり、世界平和の主要な敵であることをますますはつきりと見てとつてゐる。

アメリカ共産党の一部の指導者は、彼らとてアメリカ帝國主義が世界中いたるところでさまざまな侵略と戦争の罪行を犯していることを否定してはいないといふかもしれない。しかし、この罪行について語るとき、彼らはすぐに、それらの悪事はアメリカの大統領がやったことではなく、いわゆる「極右派」がやったことであり、もしくは大統領が「極右派」の圧力をうけてやったことであるといふのがつねである。彼らはアメリカの前大統領アイゼンハワーといまの大統領ケネディを「冷静な頭脳」をもつた、「現実感」のある、「賢明派」であるなどといつてゐる。彼らはつねに「ワシントンには二つの勢力のセンターがあつて、一つはホワイトハウスで、もう一つはペンタゴンである」といい、「ペンタゴンの將軍たちとその極右派、共和党の領袖、ウォール街のともがら」は「ホワイトハウスのそとに独立した」勢力であるといつてゐる。それならおたずねしたいのだが、もしもアメリカ共産党の指導者がいまなおマルクス・レーニン主義の國家に関する学説をみとめ、アメリカの國家機構は独占資本が階級的支配をおこなう道具であるといふことをみとめるならば、どうして独占資本からばなれて「独立」した大統領があらえようか、ど

うして、ホワイトハウスからはなれて「独立」したペンタゴンがありえようか。また、どうしてワシントンにない対立する二つのセンターがありえようか。

アメリカのいまの大統領ケネディについては、彼じしんが大資本家である。一九六一年にキューバに対する武力侵略と、一九六二年にキューバに対する軍事封鎖と戦争挑発を命令したのには、ほかでもなくケネディである。また、ベトナム南部で残酷きわまる「特殊戦争」をおしすすめ、「国連軍」をつかてコンゴの民族解放運動を弾圧し、「特殊部隊」を組織してラテン・アメリカ諸国の民族民主革命運動をおしつぶそうと気がいじみた活動をおこなっているのもほかではなくケネディである。ケネディが登場してから、軍事費は年ごとに増大している。ケネディが最近提出した一九六三〜一九六四年度の予算では軍事費は六〇〇億ドルというぼう大な額にたつし、アイゼンハワーが提出した一九五九〜一九六〇年度の予算中の軍事費四五九億ドルを三〇パーセント以上上回っている。事実が証明しているように、ケネディ政府は侵略政策と戦争政策をおしすすめてゆくうえでいつそう冒険性にとんでいるのである。

アメリカ共産党の一部の指導者は執拗にもケネディを「賢明派」としてかざりたてているが、このことは、自ら甘んじてアメリカ帝国主義の弁護人になりさがり、アメリカ帝国主義をたすけて世界の人民を欺すことになるのではないだろうか。

アメリカ共産党の一部の指導者は、アメリカ帝国主義の美化と、アメリカ支配階級への忠誠の表明にこれほどまでに熱中しているが、このことからわれわれはかつてアメリカ共産党の中に現われたブラウダーの修正主義を思い出す。労働者階級の裏切り者ブラウダーは、レーニンの、帝国主義は寄生的な、腐朽した、死にひんしている資本主義であるという基本原理を否定し、アメリカ資本主義の帝国主義的性質を否定して、アメリカ資本主義はなお「年若い資本主義制度のいくつつかの特徴を保つており」、ある長い期間内に進歩的な役割をはたし、平和をめざす世界の一つの力であると考えていた。諸君がいまこれほどまでにアメリカ帝国主義をかざりたてるのはブラウダーの修正主義とはたしてなんの区別があるのかということ、これらのアメリカ共産党の指導者たちはどうして考えてみようとしないのであるだろうか。

当面の国際共産主義運動のなかでどのようにしてアメリカ帝国主義というこの全世界人民の大敵を認識し、対処するかという問題で原則的な意見の相違があることは、あきらかである。

われわれは一貫して、マルクス・レーニン主義にもとづき、事物の本来の姿にもとづいて、たえずアメリカ帝国主義の反動的な本質をバクロし、たえずアメリカ帝国主義およびその為政者の侵略政策と戦争政策をあばき、アメリカ帝国主義は全世界人民の主要な敵であるということをはつきりと指摘しなければならぬ、と考えている。また、たえず人民大衆に対して革命的宣伝工

作をおこない、人民大衆の思想を武装させ、人民大衆の革命にたいする確固不動の信念とその革命的な警戒心をたかめさせ、人民大衆をアメリカ帝国主義反対の闘争に立ち上がらせなければならぬ。

ところが、マルクス・レーニン主義者と自称する一部のものは、自らアメリカ帝国主義を懸命にかざりたてているばかりでなく、他のものがアメリカ帝国主義をバクロすることに必死になつて反対している。彼らはこともあろうに、アメリカ帝国主義に反対する革命的宣伝工作を「罪咎」「悪罵」「口先だけの武器」「巫女の呪文」「馬糞紙の剣」などとまで中傷している。また、「帝国主義をのしるだけでは、それがどれほど理屈にあつていようと、その力を弱めることはできない」といつている。これらの人たちの論点でゆけば、「共産党宣言」が発表されていらい、共産主義者のおこなつてきたすべての革命的宣伝工作や、資本主義をバクロしたマルクス、エンゲルスのすべての著作、帝国主義をバクロしたレーニンのすべての著作、各国の共産党が共同して定めたモスクワ宣言、モスクワ声明、等々はすべて、「馬糞紙の剣」になつたということになるのではなからうか。これらの人たちは、マルクス・レーニン主義の理論がいつたん人民大衆をつかひや、どれほど大きな物質的な力を生み出すかということがせんせんわからないのである。いつたん革命的な思想で武装され、たたかう勇気を持ち、勝利をたたかいと

る勇気をもつようになる、人民大衆は天地をくつがえすような大事業をなしとげることができるのである。帝国主義をバクロすることに反対し、すべての革命的宣伝工作に反対する目的はいつたどこにあるのだろうか？ 実際には、それは人民大衆に帝国主義反対の革命闘争をさせないことにはかならない。これが徹底的な反マルクス・レーニン主義の立場であることは、あきらかである。

われわれはまた一貫して、人民大衆にたより、帝国主義およびその手先とまっこうから対決しなければならぬと考えている。これは、中国人民が帝国主義およびその手先に反対してたたかつた百二十年にわたる基本的経験であり、また全世界のすべての被抑圧民族と被抑圧人民が帝国主義とその手先に反対する闘争の中で積みかさねてきた共同の経験でもある。帝国主義と各国の反動派は、彼らのもっているありとあらゆる手段と方法をとつて各国の革命的な人民に反対している。各国の革命的な人民も敵に打撃をあたえ、自らを守り、発展させるのに有利なありとあらゆる闘争の手段と方法を学び掌握しなければならぬ。たとえば、帝国主義とその手先に反対する人民大衆の革命統一戦線をもつて帝国主義とその手先の反革命的統一戦線に対処すること、革命の二つの手段をもつて反革命の二つの手口に対処すること、自衛戦争をもつて侵略戦争に対処すること、話しあいをもつて話しあいに対処すること、革命的宣伝をもつて反革命的宣伝に対処

することなどがそれである。われわれのいう「まっとうから対決する」というのはいまのべたことにはほかならない。総論が証明しているように、こうしてこそはじめて、人民の力を鍛えあげ、発展させることができ、革命の経験をやたかにし、つみあげることができ、革命事業の勝利をかちとることができるのである。また、こうしてこそはじめて帝国主義の気炎に打撃をあたえ、帝国主義の侵略を阻止し、世界の平和を守りぬくことができるのである。

ところが、一部のものは、帝国主義に対してはかならずまっとうから対決しなければならないというわれわれの観点を故意に歪曲し、攻撃して、われわれは帝国主義と話しあいをおこなうことに反対しているといっている。アメリカ共産党も他人のあとについて、その声明のなかで、理不尽にもわれわれのこうした観点を歪曲し、攻撃している。事実はどうかかというとき、彼らは、中国共産党が一貫して、大国の首脳会談をもくめて社会主義国家と帝国主義国家が膝をまじえて話しあうことや、平和な方式による国際紛争の解決、国際緊張の緩和に賛成していることを知らないのではない。彼らはまた、わが国の政府がこの主張を実現するために積極的に努力し、大きな貢献をしたことも知っている。

それなのに、彼らがいつときの休みもなくわれわれのこうした正しい立場を歪曲し、攻撃するのはいったいなぜだろうか。

根本的にいえば、それは、帝国主義反対と世界平和擁護という闘争の方針について、われわれと彼らの間に原則的な意見の相違があるからである。われわれは人民大衆の偉大な力を信頼している。われわれは、帝国主義反対と世界平和擁護は主として各国人民の団結と闘争に依拠し、社会主義陣営、国際労働者階級、民族解放運動、平和を愛するすべての勢力の連合闘争に依拠すべきだと主張しているが、われわれとは反対に、彼らは人民大衆を信頼せず、主な希望を人民大衆の団結と闘争によせるのではなく、帝国主義の「賢明さ」と「善良さ」によせており、二つの大国の首脳会談によせているのである。彼らはもっぱら大国の首脳会談に心酔して、大国の首脳会談をおこなうことは「新段階」だとか、「人類史の転換点」だとか、「世界の歴史に新しい川をきりひらいた」とかといっている。

これらの人たちの目からみれば、人類の運命と歴史の進路は二つの大国、二人の「大人物」によつて決定されるものである。彼らにとつては、国家が大小の別なく一律に独立・平等であるということとは空言にすぎないのであつて、全世界一〇〇余の国ぐにはすべて、二つの大国のいうがままにならなければならぬのである。また、彼らにとつては、人民大衆が歴史の創造者であるということも空言にすぎないのであつて、二人の「大人物」が顔をあわせれば天下のことは何でも解決できるというのである。これは大国ショービニズムと強権政治の「理論」ではなからうか？

これはマルクス・レーニン主義となんの共通点があるのだろうか？ 実際には、こうした観点は、何も目新しいものではない、これは裏切り者ブラウダーのところから剽窃してきたものである。

ブラウダーはとつくの昔に言っている、世界の二つの最大強国の「同盟」は、「戦後の時期における集団安全保障と各民族人民の進歩の偉大なとりでになるであろう」、「世界の前途」は二つの最大強国の「友誼、諒解、協力」によつて左右されるものである、と。

アメリカ共産党の声明は別に下心をもつて、台湾、香港、澳門などのことにふれており、中国の同志が「台湾、香港、澳門にたいして冒險的な政策をとっていないのは正しいが、それにもかかわらず彼らは他人をばげまして冒險的な政策をとらせようとしている。このような二通りの標準をもつた態度をとるのはどういふわけだろうか」といつている。

われわれは、彼らがこのような奇妙かつ奇怪なことばをどこから習ってきたのかを知っている。われわれはまた、このような奇妙かつ奇怪なことばをでつちあげたものがどういふ目的をもっているかも知っている。

われわれはここで、この問題をとりあげたすべての人に回答しよう。

われわれにとつて、いままで「二通りの標準」などというような問題がおきたことは一度もなかった。台湾問題を処理するにせよ、香港と澳門の問題を処理するにせよ、また、いつさいの國

際問題を処理するにせよ、われわれにはただ一つの標準しかない。それはマルクス・レーニン主義であり、プロレタリア国際主義であり、中国人民と全世界人民の利益であり、世界平和と世界各国人民の革命事業の利益である。国際闘争の中でわれわれは冒險主義に反対するとともに、降伏主義にも反対する。冒險主義と降伏主義のレッテルをわれわれに張りつけようとしても、それはとうていできないことである。

台湾、香港、澳門のことを持ち出すものがあるからには、われわれもここで帝國主義による中國侵略の歴史を語らないわけにはゆかない。

中国革命が勝利する前の百余年間、アメリカ、イギリス、フランス、ツァーロシヤ、ドイツ、日本、イタリア、オーストリア、ベルギー、オランダ、スペイン、ポルトガルなどの帝國主義と植民地主義國は、気がいのように中国を侵略していた。彼らは旧中国の政府を強迫して彼らと多くの不平等条約を結ばせた。たとえば、一八四二年の南京条約、一八五八年の愛璦条約、一八五八年の天津条約、一八六〇年の北京条約、一八八一年の伊璦条約、一八八七年の中国・ポルトガル条約、一八九五年の馬関条約、一八九八年の香港境界拡大協定、一九〇一年の辛丑条約などがそれである。こうした不平等条約にもとづいて彼らは中国の東西南北から中国の領土を略奪し、中国の沿海と奥地にある中国の土地を租借した。彼らのあるものは、台湾、澎湖を略奪し、

あるものは香港を侵略・占領し、九竜を強制租借し、あるものは澳門を永久占領した等々である。

中華人民共和国が成立すると、わが国の政府は歴史が残している、各代の旧中国政府と外国政府との間で結ばれた条約はそれぞれの内容にてらして、あるものはこれを認め、あるものは廃棄し、あるものは改正し、あるものはあらたに締約しなおすと宣言した。この面で、われわれの社会主義国にたいする政策と帝国主義国にたいする政策とは根本的にちがっている。それぞれの帝国主義国に対してもわれわれはそれぞれ異なった状況にもとづいて政策のうえで異なったあつかい方をしている。事実、歴史上の多くの条約は、あるものはすでに効力を失い、あるものはすでに廃棄され、あるものは新しい条約にとつてかわられている。その他、歴史上残されている未解決のいづの問題に関しては、われわれは一貫して、条件が成熟したのち、話しあいを通じて平和的に解決し、解決をみるまでは現状を維持することを主張しており、たとえば、香港、九竜、澳門の問題と、いまだ双方によつて正式に画定していないすべての境界問題がそれである。台湾、澎湖については、これはすでに一九四五年に中国に返還されており、いまの問題は、アメリカ帝国主義が台湾、澎湖を侵略・占領し、中国の内政に干渉していることである。中国人民は、かならず主権を行使して、自国の領土台湾を解放するが、同時にまた、中米両国の大使級ワ

ルシヤワ会談を通じてアメリカ武装部隊の台湾および台湾海峡からの撤退問題の解決をめざして努力している。われわれのこうした立場は、中国人民の利益に合致するばかりでなく、社会主義陣営諸国人民と全世界人民の利益にも合致している。

われわれのこうした正しい政策が、カリブ海の危機のあととつぜん、一部の人がびとの議論をひきおこし、彼らの反中国カンパニアのひとつのテーマになったのはいったいどうしたわけだろうか。

どうやらこれらの英雄たちは、肥だめの中からこのような石ころをひろつてきて、これで中国人をいっぺんに打倒することができると思意になつていらしい。だが、この臭い石ころはいったい誰にあたつただろうか？

諸君は香港、澳門といった問題が、歴史上のこされてきた、帝国主義が中国におしつけた一連の不平等条約の問題だということを知らないわけではない。では、たずねるが、諸君がこういった問題を持ち出したというものは、あらゆる不平等条約をぜんぶひっぱり出してきて総結算をしようというつもりなのだろうか。そういうことをしてどういう結果をまねるか、諸君は考えてみたことがあるだろうか。そういうことをして諸君にとつてほんとうに何らかの得にでもなるか、考えているのだろうか。

うわべだけを見ると、諸君は中国が香港、澳門に対してとっている政策に賛成しているように見えるが、しかし、諸君はまた、インドがゴアを解放したということを中国が香港、澳門に対してとっている政策と比較している。具眼者なら、諸君が中国人は臆病者だということを証明しようとしていることぐらいはすぐわかる。率直にいつて、中国人民は何も、香港、澳門の問題で武力をひけらかして、帝国主義に反対する自己の勇氣とだんこたる決意を証明したりする必要はない。われわれの勇氣とだんこたる決意については帝国主義、とりわけアメリカ帝国主義がいやといふほど思い知らされている。中国人民の優れたむすこと娘たちは朝鮮戦場で三年間にわたつて朝鮮人民とともにアメリカ侵略者を迎え撃ち、自らの鮮血を流した。いま、諸君はこともあろうに香港、澳門の問題をもちだしてきてわれわれを笑ひものにしてしようとしているが、そういうことをする自分たちこそ「愚かな」、「憐れむべき」ものだと思わないのか。

われわれはよく知っている、諸君ももちろんよく知っているところだが、諸君が香港、澳門といった問題を持ち出してきたのは、タネを明かしているならば、諸君がカリブ海の危機でしかしたばざまな出来事をおおいかくすためのベールにしようということにほかならない。しかし、これはまったくむだ骨折りにすぎない。真理と錯誤には客観的な標準がある。正しいことを間違っているということはできないし、間違っていることを正しいということもできない。恥ずべき

ことを他人の前でひけらかしたところで、なんのたしにもならない。中国人民が香港、澳門の問題でとっている正しい政策と、諸君がカリブ海の危機に際してとった誤った政策をどうして同日に論じることができるだろうか。そうすることによって諸君が救われるとでもいうのだろうか。

われわれは台湾問題で、だんことして自己の主権を守っている。これはカリブ海の危機に際して自己の主権を守るキューバ人民をだんことして支持した立場と完全に一致している。「二通りの標準をもった態度」を示したなどとうしていることができるだろうか。

英雄を気取っている友人たちよ、ほんとうに「二通りの標準をもった態度」をとっているのはわれわれではなくて諸君なのだ。諸君はアメリカ帝国主義に対して、今日は海賊とよび、明日はまたアメリカ帝国主義が平和に関心をもっているなどという。革命的キューバに対しては、諸君は一方では獨立と主権をまもるキューバの五項目の要求を支持するといひ、他方では「国際警察」をキューバにおしつけようとしている。中印境界の紛争については、諸君は一方では「中国は兄弟であり」、「インドは友人である」といひながら、もう一方では悪らつにも中国を攻撃し、多方面にわたつてインドの反動派を支持している。香港、澳門の問題では、諸君はうわべは中国のために弁解しているようだが、実際には中国にヤミ討ちをしかけている。諸君のこうした行為は「二通りの標準をもった」態度ではなからうか。二重人格のあらわれではなからうか。

中国の共産主義者と中国人民は、アメリカの共産主義者とアメリカ人民とともにアメリカ帝国主義に反対する共同の戦線に立っている。われわれはアメリカ共産党をきずきあげた、アメリカのプロレタリアートのすぐれた指導者フォスター同志を心から尊敬している。われわれは、中国の人民革命が苦難の年月にあつたとき、フォスター同志を代表とするアメリカの共産主義者がわれわれに心からの声援をおくり、中米両国の共産党と両国人民の友宜の基礎をきずきあげたことを忘れていない。アメリカの共産主義者はいまアメリカ政府の横暴な迫害をうけているが、われわれは彼らのこうした困難な境遇に心から同情をしめすものである。一年前、中国共産党中央委員会は声明を発表して、アメリカ共産党を迫害するアメリカ政府の横暴な行為を糾弾した。中国人民もまたアメリカ共産党を声援する大衆運動をくりひろげた。だが、どういふわけか知らないが、アメリカ共産党の指導者は中国共産党と中国人民のアメリカ共産党に対する声援をとるにたれないものとみて、アメリカの共産主義者とアメリカ人民につたえなかつた。

アメリカ共産党の指導者は、世界でもっとも強大な、もっとも凶暴な帝国主義の心臓部にあって自己のなっている国際的義務を意識していると自称している。もしも彼らが自分になつてゐる義務についてほんとうに正しく理解しているのであれば、われわれは当然嬉しく思う。アメリカには強大な労働者階級と、民主主義と進歩をもとめる広はんな社会勢力があり、科学、芸

術、ジャーナリズム、文化・教育の各分野には多くの良心的な、進歩的な人がいる。アメリカにはまた、大規模な労働者の闘争とたえず発展する黒人の闘争があり、平和と民主主義と社会の進歩をめざす運動がある。アメリカには、独占資本に反対し、アメリカ帝国主義の侵略政策と戦争政策に反対する広はんな統一戦線をかたちづくる社会的な基礎がある。アメリカ共産党の党内にも、党外にも、マルクス・レーニン主義を堅持し、修正主義と教条主義に反対する、真の共産主義者が少なくない。もしも、アメリカ共産党の指導者がフォスター同志の革命的な伝統を継承し、発揚して、大衆に奉仕し、大衆に依拠し、大衆のなかにはいつて骨の折れる革命活動をすすめ、労働運動のなかでブルジョアジーによる腐蝕と改良主義の毒に抗し、自分たちの隊伍のなかからラーブストンや、ブラウダーの修正主義的影響をとりのぞき、自国の帝国主義の支配階級に反対する自国人民の革命闘争を発展させ、アメリカ帝国主義の心臓部にあつて全世界人民のアメリカ帝国主義反対の闘争に力を合わせてゆくんらば、それでこそほんとうに自己の国際的義務を理解し、履行したことになるのである。中国人民と全世界の人民は、アメリカの労働者階級とアメリカの革命的マルクス・レーニン主義者に心からの希望をよせるものである。

今日、各国の共産主義者の前に提起されている切実な任務は、アメリカ人民をふくむ全世界の人民を結集して、アメリカをかしらすとする帝国主義に反対するもつとも広はんな統一戦線を結成

「万国のプロレタリア団結せよ！」という偉大なよびかけは、社会主義諸国の人民と国際プロレタリアートを励ましており、全世界のすべての被抑圧人民と被抑圧民族を励ましており、アメリカをかしらとする帝國主義に反対する共同のたたかいの中で団結し、肩をならべてともに闘うべく彼らをひきつけている。

全世界の共産主義者にとつて、われわれはみな団結しなければならない。われわれはかならずマルクス・レーニン主義とプロレタリア国際主義の基礎のうえに立つて団結し、モスクワ宣言とモスクワ声明の基礎のうえに立つて団結して、闘争のほこ先をアメリカをかしらとする帝國主義にむけ、世界平和、民族解放、民主主義、社会主義をめざす全世界人民の偉大な事業が最後の勝利をかちとるまでたたかい抜かなければならない！

アメリカ共産党の声明を評す

1963年3月 初版發行

定価 10 円

出版者 外 文 出 版 社
中 華 人 民 共 和 国
北 京 阜 成 門 外 万 方 莊

番号: (日)3050-568

3-J-553P
00019

▲ 万国のプロレタリアは団結して
われわれの共同の敵に反対しよう

▲ トリアッチ同志と
われわれとの意見の相違

▲ レーニン主義と現代修正主義

(日本語、英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、ロシア語、ベトナム語、アラビア語、タイ語、エスペラント)

▲ モスクワ宣言とモスクワ声明の
基礎の上に団結しよう

(日本語、英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、ロシア語、ベトナム語、アラビア語、タイ語、ハンガリー語、エスペラント)

▲ 意見の相違はどこからくるか
——トレーズらの同志に答える——

▲ ふたたびトリアッチ同志とわれ
われとの意見の相違について

▲ アメリカ共産党の声明を評す

▲ 修正主義者の鏡

(日本語、英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、ロシア語、ベトナム語、アラビア語、タイ語、ハンガリー語、イタリア語、エスペラント)